

「海に化粧する」造形・せん茶・俳句のコラボレーション

新美術新聞 11月15日号掲載記事から

平成17年9月11日石川県能登半島の先端、珠洲市鉢ヶ崎海岸で一風変わったコラボレーションが行われた。

パーフォーマーは造形作家の伊藤公象さん、一茶菴家元の佃一可さん、俳人の黛まどかさんの3人。「海に化粧する」と題されたこのコラボレーションは、焼成しパウダー化されたピンク色の珪藻土を浜辺にまき、海波によって創られる自然の造形模様を楽しむというもの。珪藻土で濾過した甘露水で茶を楽しみ、湧き出でる言葉で俳句を吟じるというものだ。



それぞれの分野の第一人者三人が集まった初のイベントで、芸術を楽しむとともに、微生物の再生を助けるといわれる珪藻土を撒くことによって、海の環境保全にもつなげようと企画された。

金沢美大生や市民たちが、海岸に珪藻土を焼成してつくられたピンクの粉末が波打ち際に撒き、波によって刻一刻と変わる造形模様を浮かび上がらせた。

砂浜がピンク色に染まると、佃さんが珪藻土採掘場から採取した冷水で煎茶を入れ、黛さんらが俳句を砂上に書き上げた。

珪藻土のアートを眺め、波音・雨音を聴き、素足で海を触り、淹茶の香りを嗅ぎ至福のひとつときを味わう。俳句を詠んで砂浜に記した文字が波に洗われるのを見ながら五感を楽しむ一瞬のコラボレーションとなった。



パフォーマンス後の鼎談

佃
黛

黛さん、このピンクの海を見て如何ですか。

ええ、私が事前にお話しを伺って想像していたのよりも遙かに美しいですね。

先ほどヘップバーンの会員たちがこの景色を呼んだ句にも、化粧とか、紅という詞が入っていますが、本当に海にお化粧をしているようです。

伊藤

今日は天気は良くないのですが、かえって情緒のある景色になりました。

セザンヌは晴天の時よりも曇天の時の方がものの形はよく見えるというようなことを言っています。本当にそんな感じです。



佃

先ほど少し雨が強く降りましたね、ピンクの波の表面に雨が激しく打つのもきれいでした。

黛

俳句は移りゆく自然の景色や心の中の心象を切り取って言葉に表していくものだと思いますが、現代美術の世界にも公象さんのような仕事があって非常に近い存在のよう

な気がします。

伊藤 僕の仕事は日常の時間・空間の意識ではほとんど見過ごされる物質と作用の際を切り抜いて表現をする。そんな仕事をずっとしてきたんだけど。そういえば非常に近い存在かもしれませんね。

黛 公象さんは他分野の方とのコラボレーションはよくおやりになるのですか。

伊藤 ちょうど来月金沢の 21 世紀美術館で音楽家とのコラボをしますね。

私の仕事の一つに凍土と題される一連のものがあります。これは粘土を泥状にしたもの

が凍って行って形を作る、それを焼いて形を留める手法です。今度のコラボは、この凍るときに音楽を与えて見ようという企画です。

黛 音が見えない形を創るんでしょうね。

伊藤 今日はお茶がおいしかったね。造形と俳句と茶と。どういう風な展開になるのかよくわからなかったけれどもお茶っていうのは異種のを和合させるね。

佃 日本人にとって茶は独特のパーティーの手法ですね。茶には酒とは違ってそれぞれを生かしていくという技がありますね。

黛 席飾りには意味があるんですか。

佃 これは花篝と呼ばれる伝統的な手法です。昨日見たキリコは宵祭りに神社に集結し式典後、海辺で松明炎上を奉仕するものですが、花篝は祭りの時期に合わせて行う、煎茶の席飾りの一つです。

伊藤 何はともあれ楽しかった。また一緒にやりましょう

黛 ありがとうございます。



秋思（しゅうし）ふと くれなゐに海 染め上げて
まどか
秋雷や 潮に紅さして 珠洲の海
一可
紅波に消えゆく文字の秋のさま
豊和
恋歌の消されてゆくや秋の浜
陶子
秋の海うす紅色に波笑ふ
始子
うす紅の波に片恋消ゆる秋
悠嘉
秋の浜朝焼色に染まる波
恵理
薄紅の砂秋波に連れ添ひて
圭子

海に化粧する エロス(生成の化粧)・能登

2005年9月11日(日)午前 能登・珠洲鉢ヶ崎海岸リフレッシュ村にて
海岸に珪藻土を焼成しパウダー化したピンク色の砂をまき、海を化粧する。

海によって創られる砂浜の造形模様を楽しみ
珪藻土によって濾過された甘露水の茶を楽しみ
湧き出でる言葉で俳句を吟じる



黛まどか(俳人)



佃一可(茶道家)

俳人、神奈川県に生まれる。
『ハッピーバーン』代表。日韓文化交流会議委員。
1994年『B面の夏』50句で第40回角川俳句賞
奨励賞を受賞。2002年、句集『京都の恋』にて、
第2回山本健吉文学賞受賞。

陶造形作家として活動。76年の第4回インドトリエン
ナーレ国際美術展でゴールドメダル賞。84年ヴェネチ
アビエンナーレ国際美術展に出品するなど作品発表を展
開。03年イギリス・テート・ギャラリー・セントエイヴ
ス館で招待個展。女子美術大教授を経て、金沢美大大学
院専任教授。

一茶菴家元14世。煎茶道文化協会代表理事。
第2回日創展グランプリ受賞。玄奘三蔵会事
務局長 法門寺博物館名誉教授。玉華玄奘記
念館顧問。(財)全税共文化財団相談役。
スコットランド王立博物館、中国国立博物館、
韓国中央博物館などで茶会開催。

伊藤公象(造形家)



珪藻土とは

珪藻土(けいそうど)は、海中や湖に生息していた約1200万年前の珪藻という植物性プランクトンの殻が堆積、隆起してできた生命の起源にさかのぼる化石。能登珠洲地方に無尽蔵に堆積されている。主成分は、ガラスと同じで火に強く、多孔質の特長を生かして七輪の原料として使われてきた。

珪藻土を海に巻くことへの環境への影響

多孔質の物質を海にまくことは微生物の再生にもつながり、海環境の再生にも繋がる。今後は焼成の際に発生する臭気やパウダー化する技術研究が待たれている。

連絡・お問合せ 一茶菴内 「海に化粧する」担当 165-0033 東京都中野区若宮3-21-14 03-3330-8678

issaan@jcom.home.ne.jp

開催場所 石川県珠洲市リフレッシュ村 鉢ヶ崎

ツアー宿泊 リフレッシュ村鉢ヶ崎ケビン 0768-82-4322

